

令和6年度 授業改善推進プラン

青梅市立西中学校

教科名

国語

科

1 生徒の実態

1年	2年	3年
・授業には前向きに取り組もうとする生徒が多い。その一方で、各自のもつ特性から、集中することができず、授業内容の理解が追い付かない生徒も点在する。 ・小学校期の学習の積み重ねが薄く、習得しているべき漢字や語彙、熟語などの知識が全体的に身についていない。	・前向きに学習に取り組む生徒が多い。しかしながら、漢字テストや知識系の小テストなどの点数に伸び悩む生徒も多く、学習習慣が定着していない可能性も考えられる。 ・字形が整わない生徒や書くスピードの極端に遅い生徒も多く、板書視写のスピードが遅い。	・授業に対して前向きに取り組む生徒が非常に多い。創作の授業など、思考・表現が問われる場面でも積極的に取り組み、グループワークなども大変活発で学びあおうとする姿勢が見られる。 ・入試という観点で見ると、少し意識が足りない生徒も少なくはない。

2 指導上の課題

1年	2年	3年
・国語の基礎となる知識の定着に課題がある。学習内容を振り返りつつ繰り返し学ぶ施策が必要と感じる。 ・学力上位層であっても、思考を問う問題に対して、粘り強く考えることを苦手とする傾向があり、すぐに模範解答を欲する。多方面からの考えを助言しつつ、自ら考えて答えを見出す訓練が必要と感じる。	・基礎的な漢字や語彙の定着に課題があるため、同じものでも反復して取り扱う必要がある。漢字に関しては、漢字練習プリントを活用するなど、学習習慣の定着を促す対策が必要である。また、漢字の書き取りに関しては字形が整わない生徒が多い。小学校段階の書写分野が積み重なっていないという課題がある。	テスト解説などの授業で、生徒自身の間違えた問題を、なぜ間違えたのか、どうすれば正解になるのかといった振り返りをする生徒が少ない。現状に満足をしてしまうという課題がある。入試対策では自身の間違いを振り返る作業が非常に大切となるため、その習慣をつけるための対策が必要である。

3 授業改善の視点とその方策

1年	2年	3年
・知識の定着のために、まずは漢字から繰り返し学習できるプリント教材を週に一度提供することで改善を図る。 ・自身で思考をし、答えを見出すワークシートを各単元で用意し、短く簡単なものから徐々にステップアップできるような取り組みを行う。 ・各生徒の特性に配慮しつつ、生徒が互いに学びを深められるよう、少人数のグループワークを行う。	・基礎的語彙・漢字の習得のために、漢字テスト・家庭学習プリント不正解問題の練習プリント配布と提出を行っていく。 ・板書量が多くなると、視写が追い付かない生徒もいるため、ワークシートの活用やグーグルクラスルームの活用を積極的に行っていく。 ・書写の授業において、行書に入る前に、楷書での字形の整え方・観点を丁寧に扱う。	・日々の授業において、内容を入試に結び付けて教えたりするなど入試に向けた意識向上を促す授業をしていく。 ・テスト問題や日々の授業での振り返りの時間を確保するようにする。